

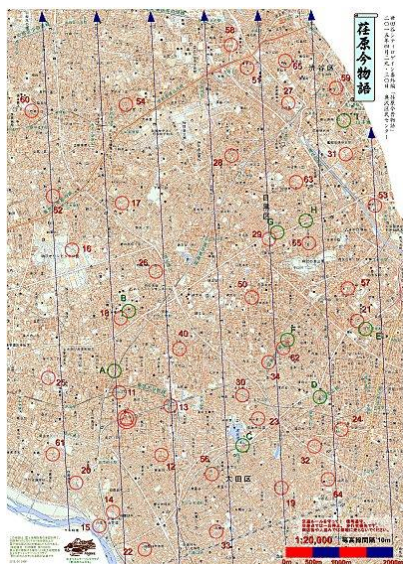
大正時代にタイムトリップ

ロゲイン荏原今昔物語 2015年4月29・30日 東京都世田谷区他

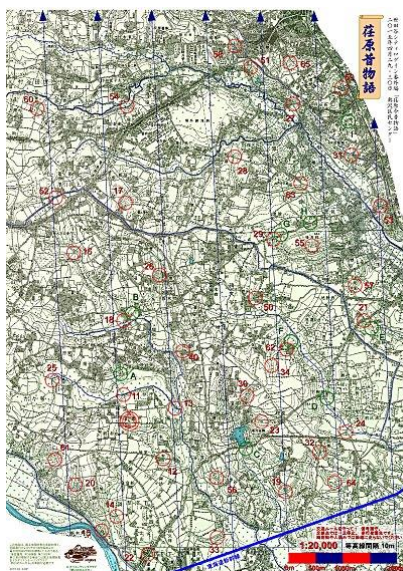
「野川のカルガモ」
後閑茂弘

4月29日(水・祝)30日(木)、東京の世田谷・目黒・品川・大田一带にあたる旧荏原郡を舞台に、世田谷シティロゲイン番外編として「ロゲイン荏原今昔物語」を開催しました(二日間とも同一コース)。

2015年4月29・30日 東京都世田谷区「ロゲイン荏原今昔物語」



荏原今昔物語



荏原昔物語

昔の地図でナビゲーション

これは昨年開催した「ロゲイン多摩川今昔物語」に続く第二幕として、昔の地図を使ってシティロゲインをやるという地図マニア向けのイレギュラー企画です。今回使用した地図は大正時代のもの。現在、この地区に縦横に走っている東急電鉄の線路や環七、環八、目黒通り、中原街道などの主要道はもちろん記載されていません。水車小屋や竹林が点在する農村風景がイメージされる地図です。

どの参加者も受付で地図を渡されると「えーっ、こんな地図でナビゲーションできるの!？」と目を白黒。ところが、それができるのです。

実は、田園調布など一部を除いて、区画整理されるまえに住宅地が広がったために昔の道がけっこう残っているのです。微妙な道の曲がりや社寺、庚申塔、馬頭観音などを手掛かりに昔の道をたどることができ、慣れてくると「この道、昔の道の匂いがする!」と楽しくなってきます。

さらに、昔の地図は田畑や林がほとんどのため、現代の住宅地だらけの地図と異なり、等高線のはっきり分かります。この地区は大正末から宅地化が進んだこともあり、現代のニュータウンのように地形を大規模に改変するような宅地造成をしていないので、住宅がびっちり立ち並んではいますが、昔の尾根・沢のイメージと合うのです。おまけに低層住宅地ですので見通しが効き、森の中よりも地形の変化を把握しやすいということもあります。

ですから、最初は戸惑うものの、慣れてくると、住宅地のなかの新しい道を走っているにもかかわらず、昔の地図の上で林のなかを直進しているような感覚になります。そんな感覚がとても面白かったとアンケートに書いてくれた参加者もいました。

ただし、正置を怠ると新しくできた道に誘い込まれ、いつの間にか違った方向に進んでいたりとか、歩測を怠ると目的地のはるか手前をうろうろするはめに陥ったりとか、油断大敵です。それだけにオリエンテーリングの基本をいかに忠実に実践するかということ

が大切になってきます。シティロゲインですが、本格的OL以上にコンパスを使います。

なお、今回は数局のラジオ局で「ロゲイン荏原今昔物語」が紹介されたこともあり、初心者への参加が多く、現在の地図を使う「一般人クラス」と大正時代の地図を使う「地図ヲタククラス」の2区分で制限時間5時間のシティロゲインとして開催しました。

チェックポイントは昔の地図上でもピンポイントに指し示すことができるポイントでなければならないため、分かれ道のお地蔵さんや社寺、沢筋の公園など少々地味なところが多かったですが、田園調布や自由が丘、中目黒、代官山などのおしゃれスポットも通るポイント配置でしたし、世田谷シティロゲイン名物の「プチグルメポイント」を今回も設定(これが目当てで参加している常連さんも少なからずいらっしやるようです)、ケーキやソフトクリーム、おでん、中華まん、お饅頭にコロッケなどをのんびり楽しみながら、ナビゲーションゲームの面白さを体得してもらえたようです。

昨年「ロゲイン多摩川今昔物語」を開催したときは、こんなマニアックなイベントに参加してくれる人などいないのではないかと思いましたが、思いのほか多くのご参加をいただき、なおかつ次回開催を熱望されました。今回も29日は申込み受付開始2週間で定員の120名に達し、30日にわざわざ休暇を取って参加してくれた方も少なからずいらっしやいました。参加者の皆様、大会サポートの皆様、本当にありがとうございました。来年には荏原今昔物語第2章があるとないとか…

(OL「野川のカルガモ」後閑茂弘)